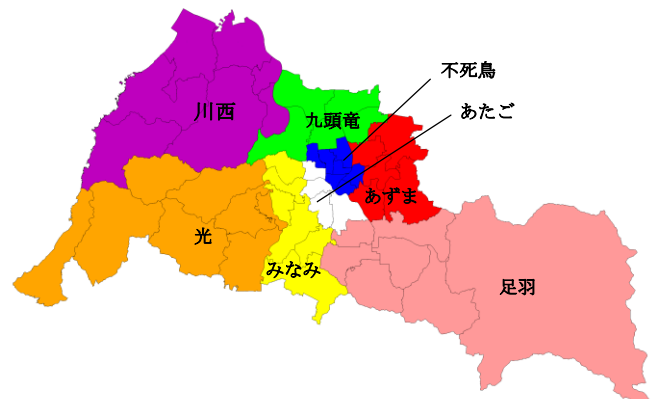


福井市公民館一覽

ブロック	No.	館名	所在地	電話番号	掲載号	ブロック	No.	館名	所在地	電話番号	掲載号	
あたご	1	木田	木田1丁目1401	36-0042	6号	光	28	安居	本堂町7-4	37-1234		
	2	豊	みのり3丁目106-8	34-0344			29	一光	下一光町6-5	37-0168	5号	
	3	足羽	足羽2丁目12-31	35-0041	7号		30	殿下	風尾町1-13	97-2377		
	4	湊	学園1丁目4-8	22-0032			31	越廼	柴崎町1-68	89-2182	7号	
不死鳥	5	春山	文京3丁目11-12	22-0057	2号		32	清水西	大森町20-43-1	98-4560		
	6	宝永	松本4丁目8-4	22-0036			33	清水東	三留町14-11-1	98-4510		
	7	順化	大手3丁目11-1	20-5458			34	清水南	風巻町21-17	98-4590		
	8	松本	文京1丁目29-1	22-0085			35	清水北	グリーンハイツ5丁目131	98-5477		
	9	日之出	四ツ井1丁目7-24	54-0040			川西	36	大安寺	四十谷町5-20-1	59-1001	3号
	10	旭	手寄2丁目1-1	20-5364				37	国見	鮎川町195-7	88-2004	4号
	11	日新	文京5丁目1-8	21-7225	3号			38	鶉	砂子坂町5-58	83-0433	
みなみ	12	清明	下荒井町8-414	38-0043		39		棗	石橋町4-14	85-1495		
	13	東安居	飯塚町6-18	35-9566	4号	40		鷹巣	蓑町16-2-1	86-1001		
	14	社南	種池2丁目206	35-9559		41		本郷	荒谷町19-55	83-0582	6号	
	15	社北	若杉4丁目308	35-9111	創刊号	42		宮ノ下	島山梨子町22-9	59-1150		
	16	社西	久喜津町65-23	34-7910	2号	足羽	43	酒生	荒木新保町37-9-5	41-2503		
	17	麻生津	浅水三ヶ町1-93	38-4383	6号		44	一乗	西新町1-31	43-2001		
あずま	18	和田	御幸4丁目9-20	22-0038			45	上文殊	北山町34-1	41-0516	3号	
	19	円山	北今泉町7-12	54-0048	5号		46	文殊	太田町4-11-2	38-0550	2号	
	20	啓蒙	開発1丁目2105	54-0046			47	六条	天王町43-4	41-1001		
	21	岡保	河水町10-13	54-2519	7号		48	東郷	東郷二ヶ町6-13-1	41-0306	5号	
	22	東藤島	藤島町48-1-1	54-0039		49	美山	美山町2-12	90-7111			
九頭龍	23	西藤島	三郎丸1丁目1410	22-0040		50	中央	手寄1丁目4-1	20-5459	創刊号		
	24	中藤島	高木北2丁目1001	54-0045								
	25	河合	川合鷺塚町9-18	55-0001								
	26	森田	下森田藤巻町2	56-0195	創刊号							
	27	明新	灯明寺町35-1-1	22-7880	4号							



《福井市の公民館に思う》



私と公民館とのご縁を振り返る

元福井市教育次長（社会教育担当）

元福井市教育委員会社会教育課長

花 木 鐵 男

私と公民館との「出会い」は、高校を卒業して足羽郡足羽町役場に奉職した後、地元「六条支所」に配属され、兼務職員として「公民館主事」を拝命したことに始まる。主事としての業務は、年に一度の「体育大会」の段取りと年3・4回程の「区長会」の世話であった。そこで、当時青年団の演劇活動について仲間たちと語り合ったり、保育園で園児に16ミリ映画をしたりもしていた。その他にも、小学生を下校時に公民館の2階に呼び、映画や物語の話をするなどして、農繁期、家族から喜ばれたことを記憶している。子どもの参加人数の増加に伴い、子どもたちが自主運営できる体制を考えた。高学年を中心に準備委員を作って、希望する内容をプログラム化し、自主的に活動ができるようにした。その後、活動が定着し始めたので、「あけぼの会」という組織を立ち上げ、幼稚園の先生などの応援を得て、文化活動やスポーツ活動に取り組んだ。青年団員と共にキャンプをするなど、子どもと青年の交流を図ったのが、若き青春時代の思い出である。

本庁勤務後も、青年団活動は相変わらず続け、「足羽町青年団長」に推され、活動を行った。その後、教育委員会に異動して「一乗谷朝倉氏遺跡」の発掘調査の担当者となった頃には、当時の町長の理解と仲間の支援を得て、「福井県連合青年団」の役員に推され、最終的には「団長」となった。

福井市合併の時、水道部勤務を経て1年後、教育委員会社会教育課の主事となった。課の中には青年団と一緒に活動していた仲間がおり、公民館主事の前歴もあったので、仕事を進めるにあたって、すぐに館長・主事の皆さんとは馴染むことができた。当時、指導係の立場にいた私は、地域住民と共に活動を進めるという姿勢と「地域づくり・まちづくり」を大切にす視点で、ブロック会などで、公民館まつりのあり方・研修会等の企画などについての話し合い論議を進めてきた。

河川課に異動し、エコ活動の視点から荒川への緋鯉の放流、小学校児童向けの「九頭竜川」の発行等、社会教育・学校教育・公民館との連携を図るべく心がけてきた。その後、少年自然の家在所長を経て、3年後、古巣の社会教育課へ課長として迎えられた。仕事内容に戸惑いはないが、公民館施設の建設・社会教育施設の管理運営などの責任の伴う役職であった。数多い課題・解決困難な問題点の数々、その中身はおのずと身分や待遇・勤務体制の問題となってくる。市公連役員との協議や市長部局とのすりあわせで難題にぶつかることもあったが、中央公民館長も併任していたので、姿勢は常に公民館側に立ち、行政交渉も行った。幸い市長以下行政役職員の理解も得て、体制作りはできたと思っている。県内で先がけて行った「半官半民」の公民館体制は今でも生きている。

私は今地元で「六寿会」という老人会の活動をしている。老人会会合で元館長・主事さんと出会うことがある。青年団から老人会まで、当時を思い起こし懐かしく語り合えることに喜びを感じている。

水と緑の「うらがまち岡保」

— 顔のみえるまち岡保 —

岡保公民館

1 岡保地区の概要

岡保地区は福井市東部に位置する農村地帯で、豊かな水と緑に恵まれている。太古の昔からわき出ている「岡の泉」は、農業用水や生活用水として人々の生活に密着しており、地区内外からまろやかな水を求めて来る人が絶えない。岡保のシンボルである「東山」には、芝生広場や遊歩道、市内を一望できる展望台などがあり、足羽山と並ぶ市民の憩いの場として、自然豊かな里山として親しまれている。

また、地区を北陸自動車道路が縦断し、県農業試験場、県警察学校、県消防学校や、市東山公園、市クリーンセンター、市東山プールなどの公的施設がある。

史跡としては、朝倉氏と縁がある「岡西光寺」や、岡の泉との関連が深い「吉備神社」などがあり、歴史ある建物や文化財が大切に保護されている。

地区内は兼業農家が多く共働き率も高いので、3世代同居世帯が多い。昨今は、少子高齢化が進み、高齢化率が高くなってきている。平成28年11月1日現在、戸数619、自治会数13、人口2,478名である。

2 地区をつなぐ—公民館と各種団体の共同事業—

岡保公民館は、様々な教育事業の開催や自主グループ活動の支援をはじめ、体育祭、防災訓練、戦没者追悼会、サマーフェスタ、長寿まつり、クリーンアップ大作戦、ふるさとまつり、年賀会などのたくさんの地区事業を関係団体とともにやっている。このように、地区団体との協働や活動へのきめ細かな支援を行うことで、地域づくりの拠点としての役割を担っている。

(1) 「コミュニティバスOKABO」と「公民館サロン」

「福井市地域コミュニティバスOKABO」が、平成28年10月から本格運行となった。ピンク色の13人乗り中型低床バスで、「岡の泉号」と「コシヒカリの里号」である。交通弱者の方の買い物や通院などの利



便性向上と、公民館に人が集まりやすくすることを目的としている。

10月の乗車数は745人、乗車密度は3.4と順調な滑り出しである。また、公民館で開催されている「岡保いきいき長寿よろず茶屋（公民館サロン）」の参加者も増え活性化してきた。このサロンは、高齢者が健康体操、介護予防体操、脳トレーニング、スティックリング、懐かしい映画の鑑賞、歌などを楽しむ憩いの場であるが、サロンの運営に地区の方（平成28年は10名）が、サポーターとして参画していることもあり、大切な交流の場となっている。

地区では、このバスが人と人をつなぎ、元気で活気ある岡保に結びつくものと期待している。

(2) クリーンアップ大作戦と環境学習

地区内に、福井市クリーンセンターや不法投棄の多い東山があることもあり、地区をあげて様々な環境保全活動を行っている。



毎年9月最後の日曜

日に、壮年連絡協議会や自治会等が中心となり「おかぼクリーンアップ大作戦」を開催している。平成28年は、子どもから高齢者まで400名近くの方が公民館に集まり、不法投棄された粗大ごみの撤去や清掃活動にあたった。（燃やせるごみ630kg、燃やせないごみ630kg、布団、掃除機、テレビ、タイヤ等）

このほか、環境美化推進委員会等が「子どもたちの未来のために」「子どもたちの幸せのために」をスローガンとして、クリーン大作戦の後に「びっくりミニミニお勉強会」を開いたり、ゴミに関するパネルを作成し公民館に掲示したりして、環境についての学習や啓発活動を継続的に行っている。

このような取組が、ゴミ問題を糸口として環境について考え、それを各家庭で実生活に生かしていくという地区をあげての活動につながっている。

3 未来につなぐーまちづくりとひとづくりー

「岡保まちづくり委員会」では、「田んぼと山が広がる岡保で、豊かな自然と心のふれあいを大切にしまちづくり」を進めたいと様々な活動を行っている。

公民館もそれらの活動の一端を一緒に担っている。

(1) 東山アクアスロン大会

「東山を楽しもう部会」が中心となり、平成 18 年から毎年、東山プールを発着点として水泳とランニングでタイムを競う



「東山アクアスロン大会」を開催している。

全国から約 300 名の選手が参加していて、各種団体をはじめ約 200 名がボランティアスタッフとして携わったり、道で地区住民が声援を送ったりするなど、住民手づくりの大会として好評を得ている。

また、宿泊した選手を郷土料理でもてなしたり、大会当日の選手の昼食に手作りカレーを提供したりもしている。そのほか、地元で収穫したお米や地酒「岡の泉」を景品として抽選会を行うなど、この大会を通して地元色の濃い温かな岡保を PR している。

(2) 岡保地区の地酒「岡の泉」

「酒づくり部会」では、平成 22 年から地区産のコシヒカリとわき水「岡の泉」を使った日本酒造りに取り組んでいる。

地域資源を活用して、委員会の活動を長期的・主体的に機能させるために必要な資金を生み出したいとの願いもあるが、地区内の県農業試験場がコシヒカリ誕生の地であることをたくさんの人に知ってもらいたいとの思いがきっかけである。

市内の酒造会社に依頼し、約 600 kg のコシヒカリで 4 合瓶約 800 本の地酒「岡の泉」を造っている。

委員会としての酒販売免許がないので、今は会員のみへの頒布だが、徐々に地区外にも会員が増えている。また「飲みやすく美味い。」と、県外へのお土産としても評判である。



(3) あったか事業「あったかノート」

「人づくり部会」では、子どもたちの「人と関わる能力」を育み、相手を尊重し思いやりのある人に育ってほしいと、地区内の子どもや壮年層、高齢者が、それぞれの温かい気持ちを交換し合う「あったか事業」を行っている。

活動としては、部会が「あったかノート」を手作りして学校に届け、子どもたちが、地区の方との気持ちの交流をそのノートに綴っていくというものである。小学校の協力の下、いっぱいになったノートを子どもたちがデザインした「あったかバッジ」と交換する取組もあり、意欲的に参加している。ノートには、「ゴミ出しに行ったら、〇〇さんのおばさんが話しかけてくれた。上手に話ができなかったけど、うれしかった。」「横断歩道で車の列が切れるのを待っていたら、止まって手で合図してくれた。」など、ちょっとした心の交流の記録が満載である。

部会では、この事業を通し、子どもを含め地区の人どうしが、かかわり合うことの大切さを確認し合うことができると考えている。また、「あったかノート」を地区の宝として保存し、公開することを検討している。



【あったかノート】 【デザインの表彰とあったかバッジ】

4 終わりに

まちづくりや地域活動が盛んである岡保地区においても少子高齢化が進み、次世代への継承とその担いづくりが課題となっている。

公民館としては、各種団体が本来の目的を認識し、それぞれの持ち味をさらに進化させ、積極的にまちづくりに貢献できるようしっかり支え、さらなる地域発展をめざしていきたい。また、特に女性や若い世代が地区の様々な活動に参画し、今後のまちづくりの要として活躍していくことを期待したい。

岡保地区では公民館を中心に人々が集い、地区をよりよくするために楽しく学び合っています。また、地区の各種団体主催の活動に参加したり応援したりすることで、人々のつながりを深めています。その要（縁の下の力持ち）は岡保公民館です。

これからも、地区の方々がすばらしい岡保に誇りをもち、人々の温かい交流がたくさん続くことを心から願っています。

一人一人が創造する越廼の未来

— 地域で青少年を育てるまちづくり —

越廼公民館

1 越廼地区の概要

越廼地区は、福井市の南西に位置し、西方は日本海に面し、東方は急峻な山並みが続いている。東西 1.8 キロメートル、南北 8.1 キロメートルと細長い地区である。総面積は、15.31 平方キロメートルで、その 8 割が林野で占められている。



【蚊之瀬海岸の不動の岩石】

日本海の荒波によって浸食された海岸線は「越前加賀海岸国定公園」に指定されている。また、越前水仙発祥の地であり、日本水仙三大群生地のひとつとして広く知れ

渡っている。

縄文・弥生遺跡の発見、古代から中世にかけての数々の伝説や有力な豪族の存在など、地区の歴史はかなり古く、朝倉氏滅亡後に関わる伝説もある。江戸時代には、幕府領と福井藩に分かれて統治されていたが、明治 22 年、旧福井藩領が、「越廼村」、幕府領が「下岬村」として発足、昭和 27 年両村が合併して「越廼村」となり、平成 18 年に福井市と合併して現在に至っている。

海岸線に沿って 8 集落が点在し、全ての集落において少子高齢化が進んでいる。平成 17 年には 1,629 人だった人口は、平成 29 年 1 月 1 日現在で、1,341 人（584 世帯）となっている。

2 次世代の担い手の育成

(1) 人との関わりを学ぶ「異年齢合宿通学」

①合宿通学の始まり

以前は、山間部の子どもたちが冬の時期に集団生活を行い、通学していた。平成 12 年に麓の子どもも集団生活を体験させようという思いから合宿通学が始まり、平成 23 年からは公民館で実施することになった。

②合宿通学の様子

今年は、6 月 13 日～17 日に 4 泊 5 日で行った。小学 3 年から中学 3 年までの 40 名が参加した。活動は、縦割り班活動で行われる。リーダーとなる中学生がグループの下級生をまとめ、みんなで協力して生活している。

＜朝の様子＞各自が身支度をし、きちんと布団をたたんで出かける。ラジオ体操や食事の配膳、片付けも子どもたちで行っている。

＜食事＞育成会や地域の方の協力で、手作りで提供されている。1 日おきの夕食は、子どもたちが手作りしている。1 日目には餃子を、3 日目には太巻き寿司、最後はバーベキューを行う。中学生が小学生に上手に教えている姿が見られる。



【食事作り＝太巻きずし】

＜入浴＞「波の華温泉」を利用しているが、火曜日は、礼儀と感謝を学ぶ機会として、「もらい湯」を行っている。指導員からの注意を聞き、それぞれの家庭へ向かっている。

＜宿題＞中学生が宿題をする時間になると O B の高校生が教えに来る。高校生は、小中学生や公民館との繋がりを大事にしてくれている。

＜洗濯＞体操服やカッターシャツのみ育成会の方が洗ってくれ、それを子どもたちが自分で干す。小さい子ども、何度もやり直しをされるうちに上手く干せるようになっていく。

③事業で得られたこと

公民館で実施するようになり、地区の方々が積極的に参加・協力するようになった。今年は延べ 100 人の方の協力があつた。子どもたちにとって、家族以外の

人との触れ合いにより、他人への感謝の気持ちや他人のために働く喜びなどが身についてきたように感じる。この異年齢合宿通学が、世代を繋げる場、地域で子育てのできる場として、より大きな人の輪ができていくことを願っている。

(2) 主体的な活動を学ぶ「越廼リーダーズ倶楽部」

この事業は、「率先して地域づくりに力や知恵を出し合うための知識と経験を身につける」ことを目標に、平成24年に始まった。小学校3年生から6年生で構成されていて、今年は隣の殿下地区の子どもたちも参加し、18人で活動を行っている。

年2回の合宿（秋・冬）に向けて、必要な学習をするために、1年間同じメンバーで、月2〜3回程度集まり活動をしている。大人は作業に手を貸さず、見守ることを原則として事業を行っている。



【ドラム缶風呂作り】

平成24・25年度は、東日本大震災を踏まえ、災害時のリーダーとしての知識を身につけるための活動を行った。秋の合宿にライフラインをすべて断って生活することを目標とし、自分たちに必要な知識や道具は何かについて考えた。そのために、教えてくれる先生を見つけ、自分たちで手紙を書き、持っていってほしいし、体験する日取りを決めて学習していった。合宿当日は、自分たちで学び作ったドラム缶風呂に、工夫し苦勞して溜めた水を鉋や斧で作った薪で焚いて入るなどの貴重な体験ができた。

平成26年からは、「越廼を知り楽しむ」ことを目的とし、食材を自分たちで調達することや保存食を作ることなどを目指した。わかめを採って塩わかめやもみわかめを作ったり、魚釣りや魚捌きを学んだりした。船つりを経験し、魚の干物も作った。海水を使った豆腐作りや小麦粉でのパンやピザ作りにも挑戦した。

この活動を通して、自分で考えて行動する大切さや責任感、仲間への気配りや思いやりを学び、絆を深め

ることにより、協力して物事を達成する喜びを味わうなど、子どもたちの確かな成長が実感できた。また、講師や荷物運びなどで、多くの大人を巻き込むことができ、大人の成長にもつながった。

(3) 巨大イルミネーションの設置（青年教育事業）

毎年、11月に公民館西側駐車場に巨大イルミネーションを設置している。これまでは、高校生が中心に作成・設置していたが、今年は、中学生がデザインを考え、設置は青年団を中心に行われた。点灯式までに、折角できたものが壊されてしまうなどのアクシデントがあったが、無事、点灯式を迎えることができ、毎日午後5時から10時まで、点灯している。



【イルミネーション】

青年団と学生とのつながりが深まり、青年団活動の活性化につながっていくことを期待している。

3 終わりに

夏休みには、1泊2日で「児童社会体験学習」を行っている。また、放課後児童教室「なかよし教室」でも様々な体験活動を行っている。今年は、夏祭りで飾る竹灯籠を保育園・小学校・中学校と連携し、全ての子どもたちが制作し、飾ることができた。

自分で考え実践していく活動は、中学生が自ら計画し作り上げている「郷土新聞作り」や「越廼サミット」の活動にも発展してきている。

試行錯誤の中、事業を進めてきたが、子どもたちの郷土を誇りに思う気持ちや越廼を担っていこうという気持ちをさらに大きく育てることに繋がったと自負している。また、世代間の関わりもより強化できたように思う。

今後も、一人一人が越廼の将来を考え、創っていこうという意識が高められるように努めていきたい。



【体験実習船「こしの」】

地区の将来を見据え、青少年への期待を持って事業を進めている公民館の皆様の強い思いを、大変印象深く感じました。

子どもの成長だけでなく、多くの大人を巻き込むことで、住民の意識にまで入り込むことができている、地区の将来に向けて、大きな成果を上げているように思います。

歴史と自然に抱かれた情緒あふれる足羽

— 未来に繋ぐまちづくり —

足羽公民館

1 足羽地区の概要

足羽地区は福井市街地の南方に位置し、交通の便の良い住宅地である。北には足羽川が流れ、南には足羽山を背景にした自然豊かな環境が広がり、福井市民の憩いの場となっている。四季のうつろいを感じさせてくれる足羽川の桜並木や足羽山の紫陽花は、特に有名である。



歴史的にも福井の文化発祥の地として知られており、北国街道のなごりが今も残っている。足

羽山には飛鳥時代・大和時代の古墳群や継体天皇の石像があり、その麓には由緒ある神社仏閣が大変多い。

福井藩主「松平家」、幕末福井の偉人「橋本左内」、戦国の武将「柴田勝家」の墓所や「由利公正」の宅跡もこの地区にある。文化面では、幕末の歌人「橋曙覧」、彫刻家でハープ奏者の「雨田光平」、福井織物の先覚者「細井順子」の記念碑があり、歴史・文化の宝庫とも言える地区である。

平成28年11月1日現在、世帯数は2,626戸、人口は6,199人である。近年は、人口減少と核家族化が進んでおり、高齢化率は34%とかなり高くなってきている。

2 地域住民のまつりへの参画

～絆を深めるために～

地域の活性化をねらいとして、毎年4月には「あすわ左内まつり」、9月には「あすわ萩まつり」、10月には「橋本左内先生墓前祭」を開催している。

これらのまつりの企画・運営等をおおして、人と人との関わりを広げ、地域住民の絆を深めるために“手づくりのまつり”を工夫している。

(1) あすわ左内まつり

福井の春を彩る「ふくい春まつり」の時期に合わせて、足羽まちづくり推進委員会や福井あすわ歴史道場、橋本左内の菩提寺である妙経寺と連携して、平成22年度から実施してきた。「左内先生のいっぷく処おもてなし茶屋」や「左内まつりコンサート」などの行事には、地区内外から多くの人が参加している。

(2) あすわ萩まつり

「萩の寺」で知られる瑞源寺は、福井藩5代藩主「松平昌親」の菩提寺で、福井城の御殿の一部が移築されていることでも有名である。

萩の花の見頃に合わせて、「足羽萩まつり」は毎年9月に開催される。平成28年度には、公民館や各種団体が、「お茶会」や「アロマスプレー」「俳句教室」などの体験活動を実施した。子どもたちにとっては公民館の講座で学んでいる茶道の作法を、この萩まつりで発揮する場となっている。多くの地域住民が集う楽しいまつりである。

(3) 橋本左内先生墓前祭

時代に翻弄され、志半ばで亡くなった橋本左内の遺徳を偲ぶ「墓前祭」は、命日である10月7日に左内公園でしめやかに行われる。

まず前日には、足羽地区の住民が主体となって「左内先生を偲ぶ会」を開催する。

当日は法要に続き、式典で橋本左内の「遺芳朗吟」が披露される。



また、小学6年生が「左内先生を讃える歌」を声高らかに斉唱する。橋本左内が15歳の時に啓発録を書

いたことから、墓前祭には学校や地域ぐるみで参加し、地区の誇りである彼の功績と教訓を若い世代に伝える取組を行っている。

3 協働で取り組む子育て事業

「子どもは地域の宝」をモットーにして、各種団体が親密に関わり合いながら子育て支援事業を展開している。

(1) 「あすわ子育てひろば」での交流

0歳から乳幼児までの子どもとその保護者を対象に、毎月2回、交流の場を設けている。季節の行事を企画したり、子育ての不安をサポートしたりするために、地域住民や福井市保健センターともタイアップしている。みんなで一緒に子育てを楽しむ企画を工夫し、魅力あふれる実践を行っている。

(2) 「地域ふれあいクラブ」での支援

毎月2回程度、隔週の水曜日に小学校で開催される講座であり、クラブ名は子どもたちみんなで考え、命名した。地域住民が“先生”となり、得意な内容を子どもたちに教えるクラブである。

平成28年度の第1回目は「絵手紙に挑戦」、続く第2回目には「消しゴムはんこ作り」を行った。一人一人の落款印ができ上がり、工夫を凝らした素敵な絵手紙が完成した。参加した子どももサポートした大人も満足げで、ほっこりとしたひとときを過ごすことができた。

ひとり暮らしの高齢者が“先生”になり、その経験が自信になって、次の行動に移すこともある。また、手伝ってくださった方々と親しくなることもあり、高齢者の豊かな生きがいがいくつくりの場でもある。

(3) 子どもの発想を生かした活動



イルミネーション点灯式が近づいた11月上旬頃、家にあるものや近くの公園の落ち葉、木の実などを持ち寄って製作活動が始まった。「放課後子ども教室」と「少年学級」に参加している子どもたちやその母親の提案である。出来上がった作品は、公民館事務所前のエントランスに飾られた。今まで殺風景だった空間が華やかになり、公民館を訪れる人たちの憩いの場所として

イルミネーション点灯式が近づいた11月上旬頃、家にあるものや近くの公園の落ち葉、木の実などを持ち寄って製作活動が始まった。「放課後子ども教室」と「少年学級」に参加している子どもたちやその母親の提案である。出来上がった作品は、公民館事務所前のエントランスに飾られた。今まで殺風景だった空間が華やかになり、公民館を訪れる人たちの憩いの場所として

利用されている。

この他にも、小学校のマラソン大会に備えて練習会をしようという声が上がリ、体育連盟が中心となって、自治連合会、交通安全協会などの関係諸団体が協力し実現した。このような活動が、老若男女を問わない地域住民のつながりを強くしている。

(4) 特色ある「見守り隊」の活動

小中学校のPTAはもちろんのこと、育成会や交通安全協会とも連携を密にして実施している。見守りの時刻は、登校時や下校時だけでなく、不定時に行っていることが足羽地区の特徴である。そのおかげで、不審者の出没はほとんどない。この地道な活動が住民同士のつながりを深め、安全・安心で支え合う地域づくりに広がりを見せている。



また、住民は子どもを叱ることを厭わず、褒める声かけも多くして、地域ぐるみの子育てを行っている。地区内には、いつも明るい挨拶の声が響いている。

また、住民は子どもを叱ることを厭わず、褒める声かけも多くして、地域ぐるみの子育てを行っている。地区内には、いつも明るい挨拶の声が響いている。

4 終わりに

地域活動は、文化や風土が大きな役割を果たしてくれる。本地区は緑豊かな自然に恵まれ、多くの文化人を輩出している。また、福井城下の寺の3割にあたる36カ寺が集中している。

「このような自然と文化・歴史を活用して、自分たちは何ができるのか。」これが、われわれの課題である。愛宕坂周辺などの散策エリアを充実させたり、住民にも観光客にも分かりやすい標識を新設したりすることも考えていきたい。

さらに、地域の歴史資源を生かしたイベントや学習会、散策などの活動を充実させていきたい。また、文化と歴史を楽しむ場として「幕末の歴史が感じられる公園の整備」を、足羽まちづくり推進委員会にも提言していきたい。

足羽地区の素晴らしさを地域住民や次世代を担う子どもたちに伝承することにより、新たな価値が見出され、さらに魅力的な地区に発展することを願っています。

福井市の公民館のあゆみ（その6）

10. 福井市43地区公民館の時代（教育事業の充実と住民主体の地域づくりへの支援）

平成3年 社西公民館が新設される

平成10年 社会教育課が生涯学習課に改称される

社西公民館が新設されたことで、福井市の42小学校区全てに公民館が設置された。（宮ノ下公民館を含めて43館）

また、社会教育課が生涯学習課に改称され、公民館の各種事業の充実が図られるようになり、行政側から提示された色々な現代的課題について、各公民館でそのいくつかを、事業の主旨をふまえ取り組むようになった。

平成11年 市民学習活動促進事業開始

一律交付の予算でなく、活動費を別途交付する制度により、各地区公民館が市民の学習活動を促進し、力量を高めていくための先進的な教育事業を実施するようになった。

平成13年 公民館IT学習環境整備事業

公民館IT学習環境整備事業ということで国庫補助事業を受け、市はパソコンとそれに関わる周辺機器を購入し、それを43館に10～20台ずつ分置した。各公民館はパソコンに関する充実した講座（市民IT講習事業）を開講した。

＜男女共同参画事業＞

平成10年 生涯学習課と共催で男女共同参画推進事業を実施

平成11年 6月 「男女共同参画社会基本法」が公布・施行される

平成11年 公民館での実践マニュアルをもとに、男女共同参画推進員が中心となり事業を実施

平成14～17年 毎年公民館2ブロックずつをモデル地区として選出し、ブロック単位で、合同研修会を実施

平成15年 男女共同参画をめざす福井市基本条例施行

平成18年 男女共同参画推進員がそれぞれの地区で事業を実施

＜青年グループ活性化事業＞

平成13年 青年グループ活性化事業を42公民館で実施

平成17年 市内の青年グループが17になる

＜子育て支援委員会＞

平成15年 公民館をはじめ、小学校、PTA、自治会、子育てサークル等の団体が構成する子育て支援委員会を小学校区単位で順次設立

＜学校教育と社会教育の連携促進＞

平成14年 学校週5日制の実施

平成16～18年 「地域子ども教室推進事業」の実施

＜環境問題＞

公民館ではゴミ問題や環境問題についての教育事業を実施し、住民理解のために一翼を担う。

＜自主グループの活動＞＜自主的な学習活動の推進＞＜各種団体活動の支援＞＜広報誌の発行＞などの事業を実施

公民館は、自主グループで活動する人たちに指導と助言をするとともに、その成果や特技を地域の事業に発揮できる場を提供する。

また、地域住民の求めに応じて、情報の提供や相談事での話し合い、あるいは、活動への積極的支援などを行う。さらに、地域の各種団体に対し、地域住民による地域住民のための活動であることに注目して、支援・協力を提供する。広報誌を発行し、地域の歴史や名所、身近な課題等を掲載することにより、地域を身近に感じてもらい、より地域のことを知ってもらう。

平成17～18年 住民主体のまちづくり体制を構築することを目的に、「夢・創造事業」を各地区で実施

平成17年 岡保公民館が優良公民館として、文部科学大臣より表彰を受ける

岡保公民館は、学校と地域と公民館がうまく連携していることで、子どもたちと地域の人たちのつながりが深く、「子どもたちは地域で育てる」という土壌が育まれていて、世代間交流が積極的に進められている。

公民館メールマガジンのご案内

福井市の全公民館でメルマガ会員を募集中です。
各公民館の「毎月の行事予定」「教室・催し」「お知らせ」
など月に1～2回メール配信が届きますので、ぜひご活用ください。

空メールを送るだけで簡単に登録できます。

右のQRコードを読み取って
希望の公民館を選び、空メールを送信
↓
返信メールが届けば、登録完了です



※メルマガの登録は無料です。但し、メールの受信に要する
パケット通信料は発生します。

<このようなメールが毎月届きます>

〇〇公民館〇月
行事予定のお知らせ☆♪

■3日(木) 10:00～12:00

子育てサロン

「なんでも相談会」

■12日(土) 13:00～

運転者講習会

「安全知識を習得しよう」

■25日(金) 9:00～11:30

環境美化研修会

動きやすい服装でご参加
ください！

■公民館まつり〇月〇日開催

展示作品を募集中！

第7号 掲載館

公民館名	住所	電話番号	メールアドレス
岡保公民館	〒918-8223 福井市河水町10-13	(0776) 54-2519	okabo-k@mx1.fctv.ne.jp
越廼公民館	〒910-3552 福井市菜崎町1-68	(0776) 89-2182	koshino1@mx3.fctv.ne.jp
足羽公民館	〒918-8007 福井市足羽2丁目12-31	(0776) 35-0041	asuwa-k@mx1.fctv.ne.jp

福井市の公民館 第7号編集委員

中央公民館運営審議会委員	稲田 勝子・中嶋貴美江
生涯学習室	山本 麻子
社会教育指導員	小林 修二・吉田 郁子
	嶋田 直美
中央公民館	平馬 吉隆・小清水直美
	田村 榮子・塩崎めぐみ



公民館の歌 (自由の朝)

山口晋一 作詞
下総皖一 作曲

快活に ♩ = 104

一. へ いわの はるに あたらしく
二. こ ころの はなの に おやかに
三. は たらく ものの や すらかに

きょうどを おこすく よろこびきも こうみんなの
きょうどに いきる たのしき も (こ)みんかんの

つどいからどきま けぼあうをこむろなごつと やかし
つどいからどきま けぼあうをこむろなごつと やかし
つどいからどきま けぼあうをこむろなごつと やかし

にい じぶあ ゆんすのの あいさすみら たくそ えとて うう

公民館の歌 (自由の朝)
山口 晋一 作詞
下総 皖一 作曲

一. 平和の春に あたらしく
郷土を興す よろこびも
公民館の つどいから
とけあう心 なごやかに
自由の朝を たたえよう

二. 心の花の におやかに
郷土にひらく ゆかしさも
公民館の つどいから
希望を胸に 美しい
文化の泉 くみとろう

三. 働くものの 安らかに
郷土に生きる たのしさも
公民館の つどいから
まどいになごむ ひとときに
明日への力 そだてよう

公民館の歌 **自由の朝** について

昭和21年(1946年)7月、文部次官通牒により「公民館の設置」が奨励され、これを受けて9月には、「公民館設置促進中央連盟」が官民の協力で結成されました。

この連盟と毎日新聞社が、文部省後援により実施したのが、公民館活動の理念を示す「公民館の歌」の歌詞の全国募集です。全国からの1,017件の応募から作家の川端康成、文部省(当時)、日本放送協会、毎日新聞社、日本レコード協会などの代表による審査団によって選ばれたのが、この歌詞です。

なお、作曲者の下総皖一は明道中学校、藤島高等学校の校歌を作曲しています。

福井市の公民館

監修 福井市生涯学習室
発行 平成29年2月
福井市中央公民館
〒910-0858
福井市手寄1丁目4-1
TEL 0776-20-5459
FAX 0776-20-1538
Eメール: cyuou-k@mx1.fctv.ne.jp
http://www1.fctv.ne.jp/~cyuou-k